
モンスターハンター転生者が行く狩人の道

Freedom

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター転生者が行く狩人の道

【Nコード】

N0134N

【作者名】

Freedom

【あらすじ】

不幸な事故により、死んでしまったけど、神様がモンスターハンターの世界に送ってくれるんだってさ。しかも武器は・・・え？リリカルなのはのバルディッシュでもいい？チートじゃねーか

転生（前書き）

二つ目です！

初めての人もよろしく願います！！

転生

やあ！俺はいま、白い空間に居るよ！

え？そんなこと聞いてない？じゃあ、何を言えば？

あ、そうか！名前か！

俺の名前は神裂^{しんぱき} 劉^{りゅう}

まだピチピチの１９歳だ！

んで、なんでこの白い空間に居るかは多分死んだから。

え？なんで死んだかって？

そなの、トラックが突っ込んできたからに決まってんじゃん。

何で決まってるかって？

それは作者が「俺は自分で書く小説では主人公はトラックで轢かれて死んでから転生するというパターンにする！！」

って決めたからだよ。悪かったね！こんな作者で！俺も文句言っただけだめだったんだよ。

まあいいや。その話は置いて、今日の前になんかいかにも神！
！って感じのご老人がまだかなーって感じにコツチを見えています。
一応声かけてみるか

劉「どうしたんですか？」

老「やあ！待っておったぞ！わしは神じゃ！」

おつと、ここで神様のご登場だ！！

劉「で、その神様はなぜここに？」

一応、不思議に思ったことを言う。

神「それはの、お主が気に入ったから、転生させてやろうと思ってな？」

ちなみに、行く世界はモンスターハンターの世界じゃ」

モンハンかあゝよし！

劉「ちなみに、いまここで武器とか防具作ってもらっていいのか？」

神「いいぞ。ちなみに武器は、どんな物でもいいぞ」

よし、じゃあ

劉「武器はリリカルなのはってやつデバイスのバルディッシュで良いか？」

神「いいぞ。ちなみに魔力とかも全部最強にまで上げとくぞ？武器は絶対壊れんようにしておこう。防具はそうもいかな」

劉「ありがとう。ちなみに防具はハンターシリーズにしといて？」

神「なぜじゃ？」

劉「それは、自分で稼いだ金で防具を作りたいからだよ」

神「わかったぞ。姿はこのままでいいんじゃない？」

劉「うーん、どうせなら、不老不死にとか、できる？」

神「できるぞ。」

劉「じゃあ、してくれ。全部でこれだけでいい。」

神「わかった。じゃあ、元気にやって来い。」

神がそういうと同時に、足元に穴が開き、落ちた。落ちていく中で、俺は意識を失った。

転生（後書き）

どうですか？感想を待ってます。

村（前書き）

遅くなつてすみません

村

なんか、背中にふかふかな感触がある。どうやらベットに居るようだ。

劉「ここは・・・そうか、俺は神に頼んでモンハンの世界に・・・てことはランポスとかが居るのか・・・てか此処どこだ？」

この質問に答えてくれるのは

バ（此処はマルス村です。そして此処はこの村にきたハンター用の家です）

劉「神がくれたバルディッシュ・・・そういえば、お前って正式名称バルディッシュ・アサルトか？」

そうだと良いな

バ（そうです。それと、製作者が、カートリッジロードは無限に出来るということです。まあ、どんなにカートリッジロードをしても、弾切れが無いということです。ちなみにバリアジャケットはしっかりと展開されます。デザインは、黒一色の長袖長ズボン、そして、マントですが、変更したい時は言って下さい。）

劉「そうか、別に変更はしなくて良いぞ・・・ってなんで日本語なんだ？バルディッシュ」

バ（製作者が設定しました。）

劉「そうか、ありがとう、教えてくれて」

バ（いえ、当然のことをしたまでです）

バルディッシュ、なんかカッコいいな

そういえば今の格好はインナーだ。色は明るい青に濃い青で模様が描かれている。

劉「そうだ！村の人に怪しまれないようにバルディッシュ、起動してくれ」

バ（イエス、サー、セットアップ）

おれは黒一色の長袖長ズボンに同じく黒のマントを羽織ったバリアジャケットを纏い、右手にバルディッシュアナザーを持った姿になった。

しかし、ふと思ったことがある。それは

劉「そういえば、バリアジャケットあるから防具要らなくね？」

ということである。

劉「防具いらねえよな？バルディッシュ」

バ（確かにそうですね。私が展開するバリアジャケットは、こちらでは、どんな攻撃をされようと通じませんし、破れません。ですが、さすがに直接攻撃、つまり、尻尾などで直接叩かれると、衝撃が少し通ってしまいます。）

劉「・・・・・・・・少し？」

バ（はい。威力によりますが、最大でも、女の人にぽかぽか叩かれるぐらいにしか感じないでしょう。しかも状態異常にもなりません）

劉「・・・・・・・・なんで？」

バ（製作者が『おまけしとくか』とのことで）

劉「ちよつとまで、もうお前さえセットアップさせればどんなモンスターでも狩れる気がするんだが？」

ほんと、どんなチートだよ

バ（確かにそうですが、マスターが経験不足なため、しっかりと修行をするべきです。修行をする場合、指示してくればプログラムを組みますが、どうしますか？）

確かにそうだな。どんなに凄い装備を持っていたても、使い手がだめならば、すべてだめになるしな

劉「そうだな、頼む」

バ（イエス、マスター）

？「おお！起きたかね？でも、なんだい？その格好」

劉「誰だ？」

なんか、バルディツシュと話してたら、いきなり部屋に入ってきてこんなこと言われた。

村「私はこのマルス村の村長のマルスだ。よろしく。でも、さつきから誰と話してたんだい？」

うーん、どうしよう？バルディツシュの事話しておくか？話したほうがいろいろ楽だしな

劉「俺の武器、バルディツシュと話していたんですよ。バルディツシュ、挨拶」

バ（初めまして、マルス村長、私はマスター劉の武器、そして鎧のバルディツシュです）

村「へえ、武器がしゃべった！？面白いねえ、世の中にはこんな武器があるのかい？」

劉「いえ、これだけです。村長、この事を村の人以外には話さないでくれませんか？」

村「何故だい」

劉「バルディツシュのような武器はこの世界には一つも無い。このことを聞いて、奪う人も居るかもしれないからです。」

村「良いけど、条件があるよ？」

劉「どんな条件ですか？」

へんなのじゃなけりや良いけど

村「君が決めてくれ」

劉「は？・・・良いんですか？」

マジで？

村「うん、良いよ」

よっしゃあ！

劉「じゃあ、俺をこの村の専属のハンターにしてくれ！」

村「そんなんで良いのかい？でも、工房が無いよ？」

バ（問題ありません。万が一壊れても自動修復しますし、壊れるなんてことにはなりません。）

村「そうなのかい？なら村には何の問題も無いよ！早速酒場に行つて登録しよう！でも、君の武器は有るけど防具は無いよ？」

劉「いえ、この服が防具です。」

村「ええ！？こんなんで大丈夫かい？」

劉「ええ、大丈夫です。これはバルディッシュが出したものでして、たとえ古龍でも、この服は壊せません。傷一つ付きません。」

神様、サービスしすぎ。でもありがとう

村「そうなのかい！？これは便利だ！！」

その後、村の人全員に俺とバルディッシュの事が伝わった。村の人たちはとても親切で、外部にバルディッシュのことを話さない約束してくれた。酒場の受付嬢も黙ってくれると言ってくれた。

その後、バルディッシュの秘密、といっても、使わない時には宝石にもどったり、宝石に戻ったとき、バリアジャケットが消えたけど、大丈夫なことなどを話した。みんな驚いたけど、黙ってくれると言ってくれた。

その後

村「劉君歓迎パーティー！！」

俺への歓迎パーティーが村全体で行われ、とても楽しかった。

そんなこともあり、疲れに疲れてしまって家に帰ってとっとと寝た。

明日から、修行とクエストをする日々が始まる

村（後書き）

村の紹介

マルス村

村を取り囲むように森が茂り、またその森を取り囲むように巨大な岩が空高くそびえている。

一言で言えば

村を囲むように森と岩の壁がある。

のである。

森には肉食モンスターや、人に危害を加えるモンスターは居ない。

生息するモンスターは

モス

アプトノス

ケルビ

修行（前書き）

遅くてすみません。

修行

朝

俺は早速庭に出て修行を始めた。

最初にバルディッシュをアサルトフォームにして、バルディッシュが作り出したスフィアを狙って振るう。それでスフィアに当たった数が千を超えたら今度はハーケンフォームにして、今度は棒状のスフィアを展開して、それを斬っていく。これも斬った数が千を超えたら、今度はザンバーフォームにして、棒状のスフィアを展開、ハーケンの時と違うところは、スフィアの向いている方向がばらばらで、この修行では、この棒状のスフィアを縦に真つ二つに切り裂くこと、正確に切り裂かないとカウントされないようにしてからやる。これも千回超えたら止める。

ちなみにバルディッシュの作った修行プランは

筋トレ

アサルトフォームでの素振り、またはスフィア切り

ハーケンフォームでの素振り、または棒状スフィア切り

ザンバーフォームでの素振り、または棒状スフィアの縦切り

ライオットフォームでのスフィア切り

スフィアの形成、打ち出し、その後のコントロール

である

これを毎日繰り返し返して行けば一ヶ月後には使いこなせるそうなのでがんばってやる。

一カ月後

やあ！この一ヶ月間、一度も欠かさず修行したおかげでバルディッシュを使いこなせるようになったよ！

しかもこの一ヶ月でわかったことは俺にも電気の魔力変換質があつて、フェイトの技使えるということなんだよ！！神様ありがとう。

ちなみに俺の魔力光は漆黑だった。魔力変換質の電気の色も漆黑、俺の装備全部漆黑（笑）！

今から初のクエストだ！まあ、最初だし、クエストは『ランポス5

頭の狩獵』にした。

そして今、密林にあるベースキャンプに居る。今から狩に行くと思うととても緊張する。

今、エリア1の中にいて、周りにはアプトノスが食事をしている。そういえば、俺のアイテムボックスにはこんがり肉が無いので生肉を調達しなければならない。なので今からアプトノス、狩ります！

まず、手ごろなアプトノスの近くの木の陰に隠れてバルディッシュをアプトノスに向けて構える。そしてスフィアを形成する（俺の使うスフィアはあの丸い形じゃあない。俺のスフィアはこういう狩場で使い、命を狩るんだ。しかも、俺の命もいつこの狩場でなくなるかわからない。だから威力を高めるためにスフィアの形は細長い棘の形をしている）。

そして、アプトノスの頭に向けて一直線に打つ！

オオオオオオオン

アプトノスは頭に一撃の加えられ、断末魔の叫びを上げながら倒れた。

その叫びを聞いたほかのアプトノス達が一斉に逃げていったが今狩ったアプトノスだけで十分なのでさっさとナイフを取り出し、生肉をできるだけ削ぎ落とす。その生肉をアイテムポーチに入れて、今度は

ランポスが居そうなエリア7を目指す。

そして、エリア7の中には、ランポスが5頭いた。

劉「好都合！」

俺はランポス達に向かって走り出し、アイテムポーチから支給品の閃光玉を取り出し、ランポスたちが全員、コツチを向いたときにピンを抜き、放って、目を閉じた。そのとき、激しい光が発生し5頭のランポスの目が焼かれた。

ギアアアア！

ランポスの悲鳴が聞こえ、目を開けるとランポスたちが目が使えず、混乱していた。

俺はすぐに背中に背負っていたバルディッシュを構えてハーケンフオームにして近くに居たランポスの首を切り、走ってほかのランポスに行き、首を狩る。

そうやって5頭全部の首を狩るのにかった時間はわずか10秒。

最初にしては良い出来だった。

すぐにランポスから鱗などを剥いでアイテムポーチに入れ、村に戻った。

修行（後書き）

戦闘シーン書けない（泣）

そして・・・（前書き）

すみません。作者に二つの小説を同時に考えるという能力が無い
ため、今回で終わります。期待してくれていた人、本当にすみません
！！

そして・・・

こうして、初の狩りが終わり、村に帰った。

その後は・・・いろんなモンスターを狩った。

ドスランポス、ドスゲネポス、ドスイーオス、ドスギアノス、イアンクック、ドスファンゴ、ダイミヨウザザミ、ババコンガ、ドドブランゴ、ラージャン、フルフル、ガノトトス、リオレイア、リオレウス、シヨウゲンキザミ、ディアブロス、モノブロス、ティガレックス、キリン、イアンガルガ、ナナ・テカストリ、トト・テカストル、ミラルーツ、ミラボレアs e t s・・・

たくさん、たくさん狩って、何時しか俺は英雄になっていた。そして今、俺は死の淵に立っている。其処までに追いやられたわけは情けないことに、病気だ。心残り、最後まで、狩りが出来なかった事ぐらいだ。弟子も沢山出来た。だが、自分の人生の最後まで、狩りをしていたかった。

そして・・・(後書き)

これで終わりです。

今後、このようなことが無いようがんばります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0134n/>

モンスターハンター転生者が行く狩人の道

2010年10月9日01時44分発行